

うんぬん
云々
(~~てんでん~~)

ひんばん
頻繁
(~~はんぱん~~)

音読の力

◆講演◆
山口 謡司
(大東文化大学准教授)

◆司会◆
竹田 之
(英語科講師)

みぞう
未曾有
(~~みぞうゆう~~)

べんぎ
便宜
(~~びんせん~~)

そうさい
相殺
(~~そうさつ~~)

ひつじょう
必定
(~~ひつてい~~)

～声に出してこそその理解力～



山口 謡司 (やまぐち ようじ)

1963年長崎県佐世保市生まれ。佐世保北高等学校卒業。大東文化大学文学部中国文学科卒業後、同大学院修士課程修了。修士課程入学と同時に東洋文庫所蔵『岩崎文庫貴重書解題』作成のため林望の助手となる。博士課程1年の時に東洋文庫研究員、1990年よりイギリス ケンブリッジ大学東洋学部兼任研究員。フランス国立高等研究院人文科学研究アジヤ言語研究センター大学院博士課程後期を経て現職。2017年、『日本語を作った男 上田万年とその時代』で第29回和辻哲郎文化賞受賞。

◆著書

『日本語の奇跡(アイウエオ)と(いろは)の誕生』『ん日本語最後の謎に挑む』『日本語通』(以上新潮新書)、『てんでん 日本語究極の謎に迫る』(角川学芸出版)、『カタカナの正体』(河出書房新社)、『漢字はすごい!』(講談社現代新書)、『となりの漱石』(ディスカバー携書)、『日本語を作った男 上田万年とその時代』(集英社インターナショナル)、『語彙力がないまま社会人になってしまった人へ』(ワニブックス)、『音読力 読み間違う日本語の罠99』(游学社)『失敗しない大人の無敵の語彙大全555』(PHP)など多数。

「云々」など、政治家の漢字の読み間違いや、失言、暴言がメディアを賑わせているが、「そもそも」我々の言葉に対する真摯さや理解力が落ちてきているのではないか？
便利なケータイ入力や変換に頼りがちな我々も、政治家の読み間違いを笑えないかも知れない。
気鋭の文献学者として、漢字の成り立ちから、カタカナ・ひらがながの変遷まで、多数の著作を執筆されてきた山口謡司先生は、今、「音読力」に注目されている。
語学の学習に「音読力」が有効なことは言うまでもないが、山口先生にその広汎な言語学の知識を踏まえて、今こそ見直されるべき「音読力」について語っていただくのではないか！

10月13日(金) 17:30~19:00
立川校 グリーンアカデミー 62教室



入場無料
申込不要

〒190-0012 立川市曙町 1-14-13
☎0120-198-640
●JR中央線・南武線・青梅線/立川駅北口より徒歩3分
●多摩都市モノレール/立川北駅より徒歩2分、立川南駅出口1より徒歩3分

